

## 学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	寺井町立寺井中学校					
学 年	1 年	2 年	3 年	特殊学級	計	教員数
学級数	5	5	4	1	15	27
生徒数	176	173	157	1	507	

## 研究の概要

## 1．研究主題

一人ひとりの「ゆたかな学力」を育む学校づくり  
～確かな学力の向上をめざして～

## 2．研究内容与方法

## (1) 実施学年・教科

全学年・全教科を対象に取り組む。

本校が平成9年度より取り組んできた「心の教育」を基盤に、「学力」に視点を置き、「『基礎的な学力』『基本的な学力』の充実」「きめ細かな指導の実践力の向上」「指導と評価の一体化を目指した『指導法の改善』」等を通して『確かな学力』のさらなる向上を図りたいと考えた。

## (2) 年次ごとの計画

平成15年度

## テーマ

一人ひとりの「ゆたかな学力」を育む学校づくり  
～確かな学力の向上をめざして～

## 研究の見通し

本校は平成15年度からの研究であり、平成15年度は「実践期」「交流期」「普及期」「発信期」、平成16年度は「完成期」「検証期」「充実期」「総括期」と考えている。

## 研究の内容・方法

## 研究の目標

- ・「基礎的な学力」「基本的な学力」の充実を図る。
- ・「地域の教育力の活用」「様々な学習形態の活用」を視野に入れた「きめ細かな指導の実践力の向上」を図る。
- ・生徒指導の3機能（自己存在感・共感的人間関係・自己決定）を生かしながら、指導と評価の一体化を目指した「指導法の改善」を図る。
- ・「校種間・学校間のネットワークの活用」「地域との送受信」を大切にしなが、地域・家庭・社会教育との連携に一層努めるとともに、学校公開・研究の普及に取り組む。
- ・個に応じた指導のための教材の開発（補充的な学習・発展的な学習）を念頭に置きながら「選択教科の充実」を目指す。

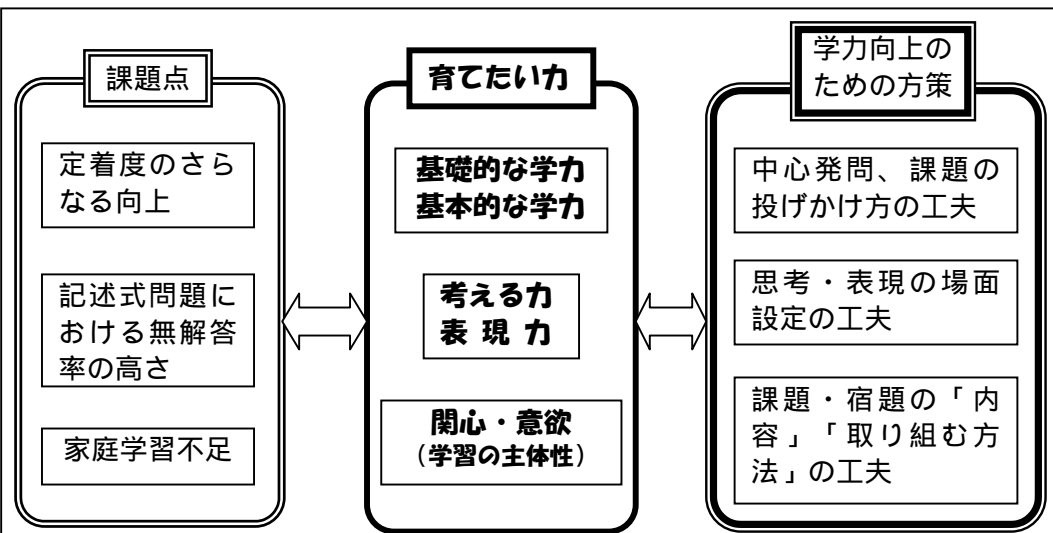
## 研究の方針

- ・月1回の全体研修会を行い、共通理解と研究の実践をすすめる。
- ・これまで継続して取り組んできた「心の教育」を基盤に、本年度から「学力」に視点を置き、『確かな学力』のさらなる向上を図る。それゆえ、本年度は教科代表者会に重点を置いて研究を進める。

- ・まず、「基礎的な学力」「基本的な学力」の充実を図りながら「発展的な学力」「実践的な学力」の向上を目指す。

具体的な取り組み

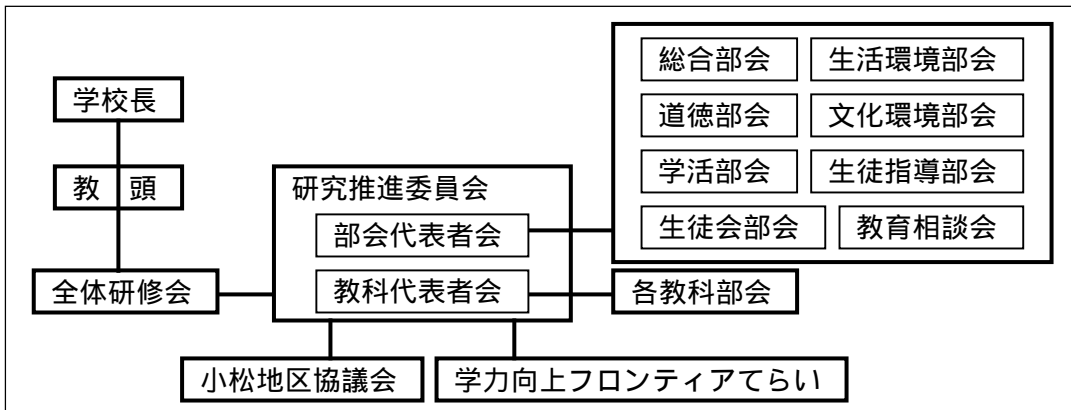
- ・年度当初に「課題点」「育てたい力」「学力向上のための方策」を協議、確認しながら次のような取り組みを行った。



- 年間
- ・1、2年生の朝自習に読書活動を取り入れ、「読解力」「表現力」の基礎・基本の定着を図る。
- 4月
- ・「学力向上フロンティア」について協議
- 5月
- ・「学力向上のための方策」について協議
- 6月
- ・授業研究
  - ・「学力向上の検証方法」について協議
- 7月
- ・「生活と学習に関する意識・実態調査（アンケート）」実施《生徒・保護者・教師対象》
  - ・期末テストにおける無記入率調査【全体の無記入率と記述式問題の無記入率】
  - ・「授業の基礎・基本とは何か」の協議
  - ・教師から見た「本校生徒の生活と学習に関する意識・実態」分析
  - ・1学期末テストにおける無記入率結果の分析
- 8月
- ・「学力向上フロンティアてらい」発足
  - ・基礎学力の向上について（講演会）
  - ・個に応じた学習指導について（講演会）
  - ・「基礎学力調査（3年生対象）」の結果を基にした本校生徒の学習（学力）状況分析と今後の課題を検討
- 9月
- ・粟生小の英語学習に参加、交流
- 10月
- ・「生活と学習に関する意識・実態調査」結果を基に各学年で生徒の状況を分析、今後の課題を検討し、全体で交流
  - ・「きめ細かな指導（数学、英語）」の授業実践を通しての学力向上について」（授業研究）
  - 町内各小学校からも授業を参観してもらい、整理会の中で交流した。
  - ・宮竹小学校の少人数授業を参観
- 11月
- ・授業研究
  - ・各教科における「学力向上のための方策」「学力向上の検証方法」の交流学習会実施
- 12月
- ・「生徒の学力向上を目指して～遊学館高校における教科指導から～」の学習会実施

平成16年度	テーマ 平成15年度と同じ 見通し 平成15年度の見通しに記載済み 研究の内容・方法 「完成期」「検証期」「充実期」「総括期」ととらえ、平成15年度の研究をさらに深め、まとめていく予定である。
--------	---

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

成果

全教科において「育てたい力」を掲げ、「学力向上のための方策」を考えながら、生徒の実態を把握し、検証へとつなげていけたのが今年度としての成果だと思われる。検証データとして国語、社会、数学、理科、英語の1学期末テストと2学期末テストの「無記入率差」「記述式問題の無記入率差」を記載しておく。(「2学期末」-「1学期末」で算出。数値は%。+は無記入率アップを意味する。斜線は比較できなかったことを示す。)

教科	データ名	1年	2年	3年
国語	無記入率差	-4.4	-6.8	-0.1
	記述式問題無記入率差	+7.6	-6.1	+4.5
社会	無記入率差	-3.8	-0.1	-10.3
	記述式問題無記入率差	-6.1	-3.2	-20.1
数学	無記入率差	+7.3	-1.5	+5.9
	記述式問題無記入率差	+11.4		
理科	無記入率差	+0.2	-0.2	-2.2
	記述式問題無記入率差	-1.8	+1.5	-0.8
英語	無記入率差	+8.2	+1.8	-0.8
	記述式問題無記入率差	+10.2	-1.2	-0.7

単純にデータだけを基にした検証は難しい(テストの難易度、設問数にもよるため)が、取り組みを通して「『育てたい力』は伸ばせたのか」「授業における指導や『課題・宿題』は適切で効果的だったのか」「授業における『思考・表現』の場面設定やそれを含めた授業全体の構成はどうだったか」「授業に関わってテスト自体の内容、設問は適切であったか」「指導と評価の一体化は図れたのか」を教科部会で協議できたことは、来年度に向けての収穫であった。

1・2年生で「読解力」「表現力」の基礎・基本の定着を図るため、朝自習に読書活動を取り入れ、サポート体制として週2回程度職員朝礼を無しとし担任が時間いっぱい教室指導するようにしたのも画期的であった。

「生活と学習に関する意識・実態調査（アンケート）」からは数学の習熟度別少人数指導が肯定的に受け入れられ、生徒の意欲を喚起させる等効果的であることが読みとれた。宿題・課題に関しては、保護者からの要望が意外と多いことも分かった。また、生徒の目から見た学習環境、授業の様子や学習集団としての意識等様々な観点から、教師の目から見たものと比較しながら学年ごとに分析・交流できた。

「基礎学力調査」の結果を基にした生徒の学習状況分析を行ったが、生徒の意識デ・タと正答率の県平均との比較により、生徒の授業に対する思いと定着度の関連等興味深いことがわかり、2学期以降の授業の参考になった。

「『きめ細かな指導（数学、英語）』の授業実践を通しての学力向上について」の全体研修においては、町内各小学校からも授業を参観してもらい、整理会の中でも交流でき、送受信という意味で意義深いものとなった。

各教科における「学力向上のための方策」「学力向上の検証方法」の交流学習会によって、指導の視野を広げることができた。

私学高校という校種、運営手法ともに異なる学校から教師を招き「きめの細かい指導・支援」「教師一人ひとりが持つ責任の意味」「学校・教師集団としての目的意識の一体化」等についての話を聞くことにより、教えることに関するモチベーションを高めることができた。

「学力向上フロンティアてらい（授業改善委員会・少人数委員会・家庭学習委員会）」とのタイアップにより、町内全小中学校が共通のテーマで実践研究、交流ができ、風通しのよい連携が図られている。

## 2. 今後の課題

全教科において研究に取り組んでいることや町や他校とのタイアップという意味では意義深い、「生徒のための取り組み」という視点で、各教科の『授業』を振り返ってみると教師一人ひとりの『指導力・実践力』不足は否めない。今後は「生徒の学力向上のための『授業改善』」を主眼点としながら、さらなる「『指導力・実践力』向上」が求められる。より深く研鑽を積みたい。

### 学力把握のための学校としての取組

- ・基礎学力調査（石川県主催）の実施と分析  
（生徒の授業に対する意識と学習定着状況の分析）【5月～8月実施】
- ・「生活と学習に関する意識・実態調査《生徒・保護者・教師対象》（アンケート）」  
（立場の異なる3者から見た生徒の生活・学習の意識・実態の調査・分析）  
【今年度は7月～8月実施】
- ・1学期末テストと2学期末テストの「無記入率」「記述式問題の無記入率」調査と分析  
（国語、社会、数学、理科、英語の学力向上の検証方法として活用）  
【7月】【12月】

### フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・本年度の研究を冊子にまとめ、学力向上フロンティア事業小松地区協議会を通じて、管内すべての小・中学校に配付する。
- ・「学力向上フロンティアてらい（授業改善委員会・少人数委員会・家庭学習委員会）」において随時報告している。
- ・本年度石川県中学校教育課程研究集会において報告した。
- ・本校の全体研修会に町内小学校の教師を招き、報告・交流した。
- ・能美郡学校教育研究会の各教科部会において研究成果を報告する。（2月）

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- |                      |                    |                   |    |      |
|----------------------|--------------------|-------------------|----|------|
| 【新規校・継続校】            | ・ 15年度からの新規校       | 14年度からの継続校        |    |      |
| 【学校規模】               | 6学級以下              | 7～12学級            |    |      |
|                      | ・ 13～18学級          | 19～24学級           |    |      |
|                      | 25学級以上             |                   |    |      |
| 【指導体制】               | ・ 少人数指導<br>一部教科担任制 | ・ T.Tによる指導<br>その他 |    |      |
|                      | 【研究教科】             | ・ 全教科             |    |      |
|                      | 国語                 | 社会                | 数学 | 理科   |
|                      | 外国語                | 音楽                | 美術 | 技術家庭 |
|                      | 保健体育               | その他               |    |      |
| 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 | ・ 有（少人数）           | 無                 |    |      |